



写真1



写真2



NEWS



救急の日イベント



～外傷ドクターカーと衛星通信車両の展示企画の開催～

救急・集中治療調整管理センター / 高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

9月9日は救急の日です。国民の皆様へ「救急」について広く知っていただくためのこの日に合わせて、救急の日イベントに参加いたしました。イオンモール出雲および出雲消防署のご依頼を受けて、イオンモール出雲の駐車場にて、外傷ドクターカーと原子力災害医療派遣チーム衛星通信車両の2台を展示し(写真1)、県民の皆様に見学いただくイベントを開催しました。

外傷ドクターカーは、交通事故や大規模災害などに119番で救急車が出動すると同時に出勤し、現場から治療を開始するための診療車両です。外傷ドクターカーは「動く救急室」ともいえる車両です。普段見ることのできない内部の様子や装備について車内に乗り込んで見学いただきました。原子力災害医療派遣チーム衛星通信車両は、原子力災害により医療を必要とする患者さんが発生した際に、その医療チームを派遣する車両ですが、本車両には現場と基地病院とをつなぐ衛星通信機器が搭載されています。大規模地震とともに原子力災害が発生すると医療のための通信が遮断され、適切な医療提供を困難にしますが、本車両の活用によりこうした通信障害時にも適切な搬送と医療提供が可能となります。

今回、非常に多くの皆様に来場いただき、外傷ドクターカーと衛星通信車両を見学いただきました(写真2)。これらの車両の役割をご理解いただくことで、より良い救急医療提供につながると考えられます。救急の日にふさわしい大変良いイベントとなりました。

お問い合わせ 高度外傷センター TEL:0853-20-2757

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

10月15日～11月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
10/29(日) 9:30~11:30	令和5年度 出雲 NST 研修会	ゼブラ棟 だんだん ※要事前連絡	医療 本学	島根大学医学部附属病院 栄養治療室
10/29(日) 13:30~15:30	出雲市民フォーラム 「高齢者に多い心臓(血管)と脳の病気～最新の治療戦略～」	島根大学医学部臨床小講堂	一般	島根大学医学部総務課 企画調査係

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



CONTENTS

表紙: 脳神経外科 教授 林 健太郎

中表紙
・医学部長就任のご挨拶
・手術支援センター
センター長就任のご挨拶

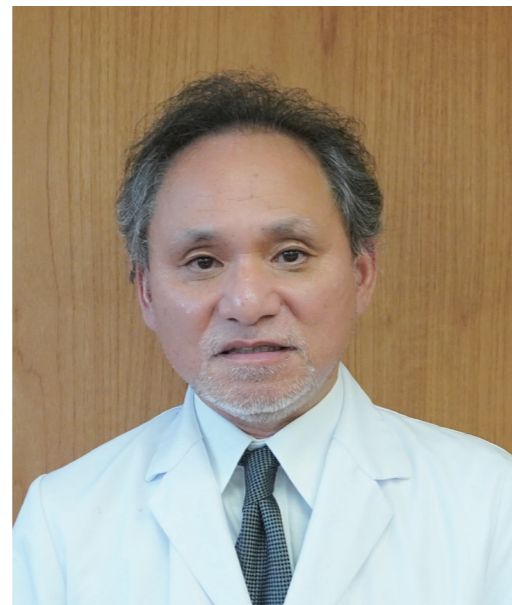
裏表紙
・救急の日イベント
～外傷ドクターカーと衛星通信車両の展示企画の開催～
・研修会・講演会・セミナー開催情報



医学部長就任のご挨拶

内科学講座 (内科学第二) 教授 いしはら しゅんじ
石原 俊治

10月1日より医学部長を拝命いたしました内科学講座第二 (消化器内科) の石原俊治と申します。私は1988年に島根医科大学 (当時) を卒業しています (7期生)。この度、母校の医学部長という重責を担うこととなり身の引き締まる思いであります。



本学の使命は「国際的視野に立った豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探究心を持ち、医療、医学、看護学及び地域社会の発展に寄与し、人類の福祉に貢献し得る人材の育成を目的とする」です。中でも、将来、医療に携わる立場として「プロフェッショナルリズム (卓越性・人間性・説明責任・利他主義)」を有する医療人の育成は、医学・看護教育の中で最も重要な使命といえます。「先進医療の実践」と「地域医療への貢献」は本学が目指す大きな2本の柱であり、その達成には現代医学の多様性に対応できる卒前・卒後教育が必要と考えています。さらに、世界に研究成果を発信できるリサーチマインドに富んだ医療人の育成も目指します。

医学部運営には、教員、講座スタッフ、事務部、附属病院の医療スタッフや事務職など、様々な部署の皆様のごつながりが不可欠です。在任中は「人と人がつながる医学部を目指して」というキャッチフレーズの下、教育、診療、研究をバランスよく運営していく所存です。

手術支援センター センター長就任のご挨拶

手術支援センター センター長 すえひろ しょういち
末廣 章一

手術は外科系の治療として必要不可欠なものです。体に傷をつけて治療を行うため、合併症を起さずに手術を完遂することは、非常に大切です。

当院では年間8000件を超える手術を行っています。複雑で難易度の高い手術を行うことが多く、合併症の発生リスクも高く、手術中の合併症の予防と生じた際の迅速な recovery が重要となります。

手術支援センターでは、Surgical Rescue Team (サージカルレスキューチーム) と周術期管理チームが活動を行っています。Surgical Rescue Team は、手術中に合併症が生じた際に、レスキューすることを目的としたチームです。合併症発症の際は心臓血管外科、消化器総合外科、高度外傷センター、放射線科、麻酔科、集中治療部の医師などが当該科と連携して診療にあたり、看護部・MEセンター・輸血部・医療安全部の職員など職種を超えた協力を得て、合併症を最小限に抑えるように対応します。



合併症を生じる危険のある症例においては、多職種間でのカンファレンスを事前に実施し、集学的に患者さんの手術をサポートできる体制を整えています。

また周術期管理チームは、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、歯科医師などが連携して術前の必要なケアを効率的に行い、できるだけ良い全身状態で手術に臨んでいただくことを目標に活動しています。

今後も関係各部署と連携し、当院での「安全・安心な手術の提供」が継続できるよう尽力してまいります。



ご報告

高性能IVR-CT装置が稼働開始しました!

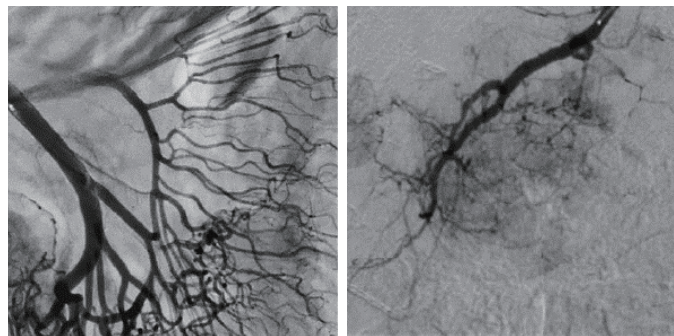
放射線部 部長・放射線科 科長 **かじ やすし**
楯 靖
 放射線部 副部長 **よしご たけし**
吉廻 毅
 放射線科 外来医長 **なかむら めぐみ**
中村 恩

IVRはインターベンショナル・ラジオロジー(Interventional Radiology:画像下治療)の略で、X線透視やCTなどの画像診断技術を応用しながら体内に細いカテーテル等を挿入し検査・治療を行う技術です。IVR検査はX線透視・撮影装置とX線CT装置が一体となったIVR-CT装置を用いて行うことで、病巣への血流情報や複雑な血管解剖を立体的に把握することができます。IVR-CT装置が更新の時期を迎えたため、より詳細な画像をより低い線量で取得できる新しい装置を導入し、本年9月より稼働しています(図1)。

図1 IVR-CTシステム(全身用X線CT装置(80列)とX線透視・撮影装置)

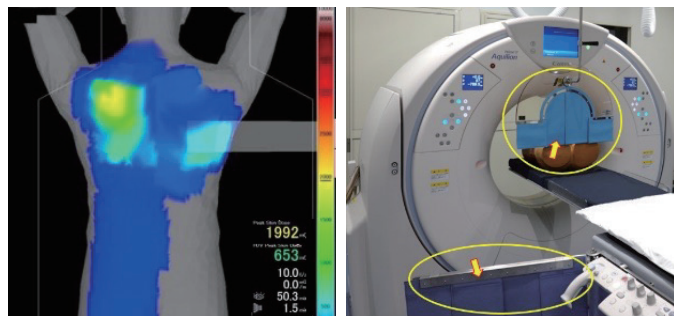


図2 (左)上腸間膜動脈造影拡大像、(右)肝動脈化学塞栓療法後拡大像



画像の色を決める最小限の単位を画素と言いますが、画素が細かいほど詳細な構造が分かりやすく見えます。IVR検査では動画も撮影するため、画素を小さくするには高い技術力が必要です。従来は1画素の大きさが194μm程度でしたが、今回の装置では76μmと非常に小さく、これまで得られなかった高い空間分解能の画像が表示され、安全に細い血管内にカテーテルを進めることができます(図2)。

図3 (左)患者皮膚線量モニタリング機能、(右)被ばく防護対策の鉛板



※図2(左右)、図3(左)写真提供:キャノンメディカルシステムズ株式会社

また、検査・治療を受ける患者さんと検査を実施する術者の被ばく低減・防護対策も組み込まれています。撮影中にリアルタイムに皮膚入射線量をモニタリングする機能「Dose Tracking System」を導入し、患者さんの線量を把握しながら検査を進めることができます。更に、CT専用の放射線被ばく防護板はガントリ開口部にあわせた形状のため、CT撮影時に発生する散乱線を遮蔽し、術者の被ばく線量低減に効果を発揮します(図3)。

この新しい装置を十分活用し、県内の患者さんに適切なタイミングで必要なIVR検査・治療を提供できるように、放射線科、放射線部スタッフ一同取り組んでまいります。

問合せ先 放射線科外来 TEL:0853-20-2392



ご報告



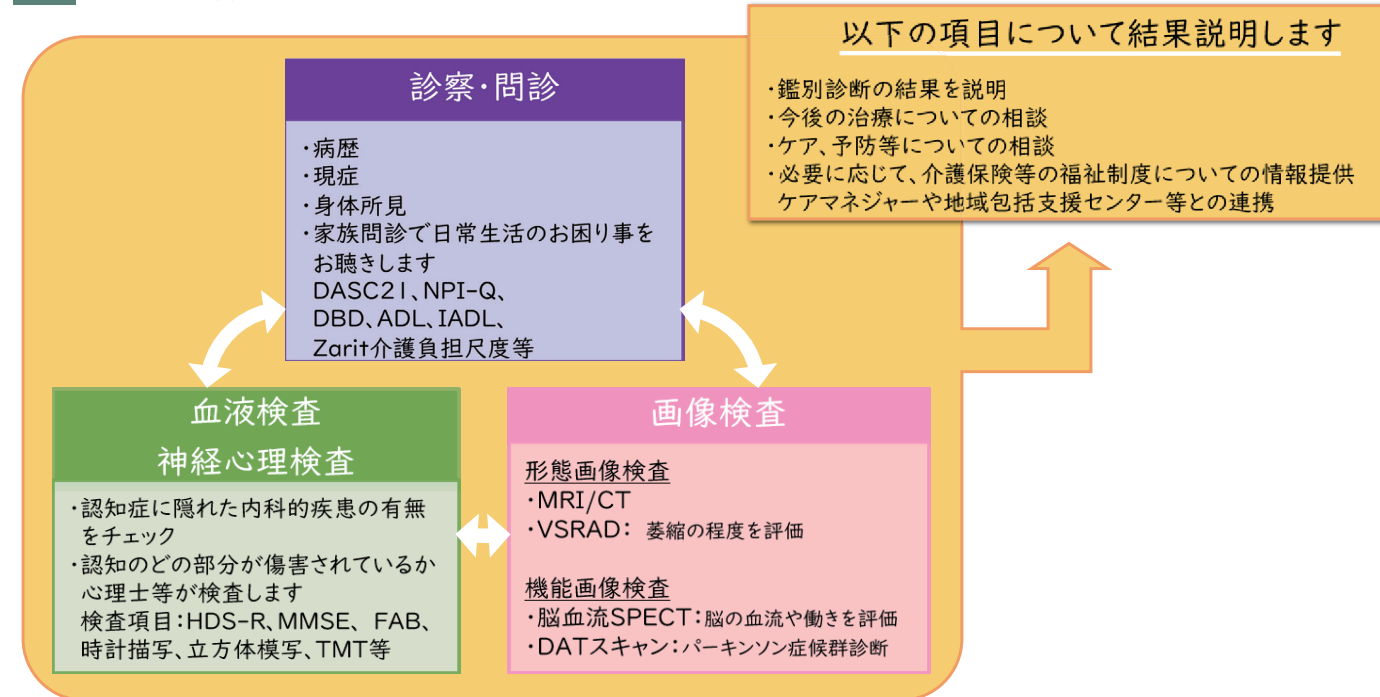
もの忘れ外来で行う認知症鑑別診断

認知症疾患医療センター

もの忘れ外来は、脳神経内科と精神科神経科の医師が対応しています。完全予約診療としており、脳神経内科と精神科神経科の物忘れ外来初診枠の中で、より早い日時で予約を取らせていただきます。

今回は、当院もの忘れ外来の診察の中で、特に鑑別診断において重要視する情報について説明します。診察・問診、血液検査・神経心理検査、画像検査それぞれに重要なポイントがあり、互いに補い合う関係です(図1)。

図1 鑑別診断の内容について



早期鑑別診断のメリット

- 早い時期に治療薬を開始したり、予防を意識することで改善したり、認知症の進行を遅らせる可能性があります
- 病気の症状や進行に見合った適切な支援を受けることが可能となります
- 本人や家族が話し合う時間をつくったり、その後の生活のことを考える時間をもつことができます

多角的に評価を行い正確な診断と的確な治療アドバイスに努めていきますので、引き続きご支援をよろしくお願ひします。

認知症疾患医療センタースタッフが相談対応等も行っております。お気軽にご相談ください。

問合せ先 認知症疾患医療センター TEL:0853-20-2630





ご報告



ご報告

微生物学講座のご紹介

微生物学講座 教授 よしやま ひろのり 吉山 裕規

微生物学講座では、細菌やウイルス感染によって起こる宿主の変化「炎症・免疫・発癌」を理解し、その治療戦略を確立することとし、現在次の3つの研究を行なっています。

- ① Epstein-Barr ウイルス関連腫瘍の形成機構の解明と治療 (図1)
- ② B型肝炎ウイルスの増殖を抑える宿主 microRNA による抗ウイルス療法
- ③ 新型コロナウイルスのサブゲノム形成機構の解明と治療応用

EB ウイルスの研究が中心ですが、がんと重篤感染症を起こす病原微生物を柔軟に研究対象に取り入れています。現在はスタッフ3名と事務補佐員を中心メンバーに、大学院生が博士課程6名、修士課程1名在籍しています。さらに、研究員を3名加えた、総勢15名で賑やかに教育と研究を推進しています(写真1)。

詳しくは微生物学講座ホームページ <https://yoshiyama-lab.org> をご覧ください。▶▶▶▶

問合せ先 微生物学講座 事務室 TEL : 0853-20-2148



微生物学講座 HP

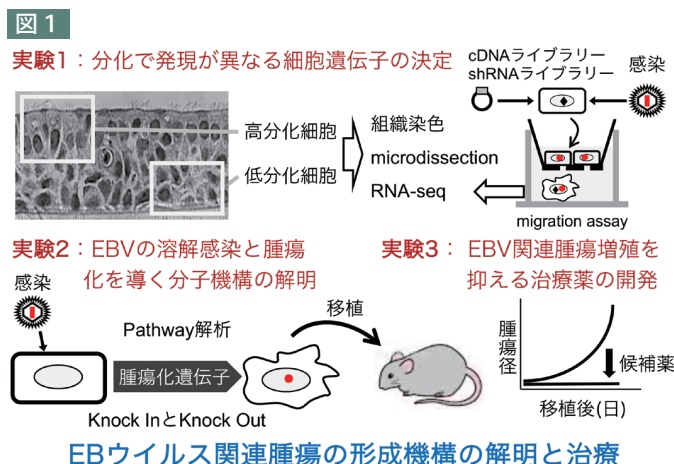


写真1 微生物学講座スタッフ一同(前列中央:吉山教授)



がんに関する市民公開講座を開催しました

先端がん治療センター/腫瘍内科 教授 たむら けんじ 田村 研治

2023年9月2日(土)に、出雲市内で「がんに関する市民公開講座」を開催いたしました(図1)。毎年行っているもので、今年のテーマは「新しいがん治療」です。

私が1つ目の講演を行いました。演題名は「新しい乳がん治療」です。最近、当院に開設された「乳腺センター」についてお話をしました。乳腺センターの設置は集学的治療が必要とされる乳がん診療において、多診療科、多職種連携を促進します。次に、低侵襲外科治療として乳がん内視鏡手術について、又、最新の乳がん薬物療法として、4つの分子標的薬 (HER2 抗体薬物複合体、免疫チェックポイント阻害薬、CDK4/6 阻害薬、PARP 阻害薬) について紹介しました(図2)。

2つ目の講演は、当院臨床遺伝診療部 荒木もも子看護師・認定遺伝カウンセラーが行いました。演題名は「遺伝・ゲノム医療って聞くけど、がん治療とどう関係があるの?」です。遺伝性腫瘍の診断、がん遺伝子パネル検査、又、遺伝子カウンセリングなどについて、とてもわかりやすい説明がありました。

3つ目の講演は、島根県立中央病院緩和ケア科 医師の武田啓志先生が行いました。演題名は「がん治療を支える医療」です。多診療科、多職種で行われた緩和ケアの模擬カンファレンスのビデオなどを用いて、その目的や必要性についてお話がありました。最後に、現地出席、又は、WEB参加の皆様から寄せられた多くの質問に、3人の講演者が直接お答えしました。

がんは日本人の死亡原因の第1位です。又、がん治療には生活の質の維持が欠かせません。個々のがん患者は自分の疾患とその標準治療を知り、いくつかの選択肢の中から治療を選ぶ権利 (shared decision making) があります。「いっしょに考えましょう、がん医療」というテーマを大切にしながら、市民公開講座を継続していきたいと思えます。

図1 ポスター

図2 新しいがん治療

治療成績の向上・個別化医療

機能的、多診療科、多職種連携の実現

問合せ先 先端がん治療センター TEL : 0853-20-2308





ご報告

世界小児がん啓発キャンペーン

島根県内各地の建物がゴールドに輝きました!

小児科 教授 竹谷 健
チャイルドライフスペシャリスト 黒崎 あかね

毎年9月は、「国際小児がん学会」が全世界で「ゴールド・セプテンバー・キャンペーン」を推奨しています。各国・地域を象徴する建物や遺跡等を小児がん啓発のシンボルであるゴールド(金色)にライトアップし、小児がんの治療の重要性を啓発するとともに、子どもたちに必要な医療や研究に「光を照らす」イベントです。

昨年から、当院小児センターは、島根県や島根大学と共同でライトアップに参加しています。9月9日(土)に島根県内では、松江城、TSK本社、出雲大社、日御碕灯台、アクアスの5か所がゴールドに輝きました。出雲大社ではたくさんの医療スタッフの協力と、多くの患者さんやご家族のご参拝もありました。また、松江城では小児がんの家族会の募金も一緒に行いました。久しぶりに会う患者さん同士が懐かしそうに話をしている様子や、子どもたちが一緒に遊んでいる姿を見ることができました。ご協力いただいた皆様には心よりお礼申し上げます。

80%の小児がん患者さんを救えるまでに進歩致しましたが、まだ20%の子どもたちを救うことができません。また、病気を持って生活している子どもたちも少なくありません。

すべての小児がん患者さんを100%救い、そして後遺症なく元気に生活できるように、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

YouTube

https://www.youtube.com/watch?v=DBAjFL_h6L8



小児がん啓発キャンペーン
GGSCスマイルアクション



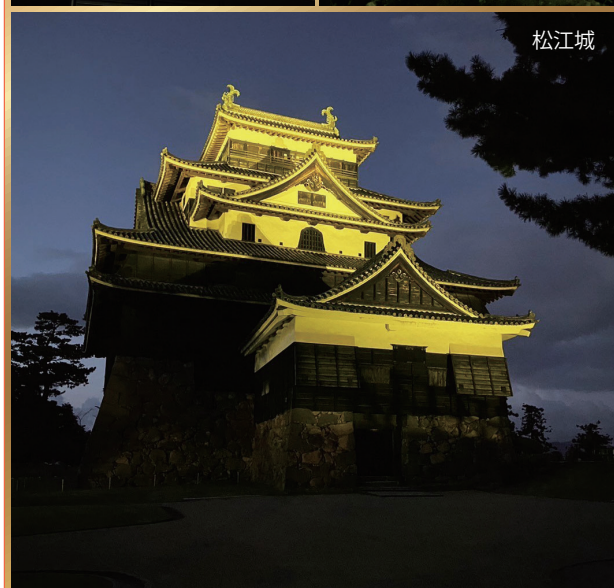
出雲大社



TSK本社ビル



日御碕灯台



松江城



アクアス



お知らせ

写真1



大学入り口のプランター

写真2



寄付頂いたお皿など

写真3



リユース市

活動紹介

EMS学生委員会について

島根大学医学部医学科4年 EMS学生委員会代表 勝部 司

私たちEMS(Environmental Management System)学生委員会は、学生の視点から環境に配慮した大学になるよう環境整備などの活動を行っています。現在約35名で活動しています。

コロナ禍前は年2回の花植えに加え、学生に身近な環境整備を呼びかけるキャンパスクリーンウィークやごみの分別調査、自転車・食器の寄付の呼びかけを行っていました。コロナ禍では思うように活動ができませんでしたが、少しずつ活動を再開しています。

昨年度はキャンパスクリーンウィークとして学生の休憩場所であるアメニティスペースとロッカールームの清掃に加え、花植えを行いました。新入生が気持ちよく入学できるよう、大学の入口などに色とりどりの草花をプランターに植え、皆さんを迎えました(写真1)。今年の10月にも花植えを予定しております。

今年度の初めには新入生に向けてリユース市を行いました(写真2・3)。リユース市とは「つくる責任、つかう責任」の考えのもと、卒業生から要らなくなったものを頂戴し新入生に無料で譲るという活動です。自転車と食器に加え、今回は小さめの家具も併せて募りました。たくさんの寄付もあり、これまでの在庫と合わせて200点以上集まりました。新入生からの感謝の声も多く、今後の活動への励みとなりました。

これからも学生の視点から環境に配慮した大学になるよう活動を続けて参ります。私たちの活動を見守っていただけますと幸いです。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL:0853-20-2088





ご報告

(3D Accuitomo M)

アーム型X線CT診断装置による 鼻内視鏡手術の術中評価

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 もりくら いちろう
森倉 一朗

副鼻腔は大小の骨と粘膜に覆われた空洞が集まって蜂巢状になっています。空洞の一部またはすべての空洞の粘膜が炎症を起こし、時には膿を産生してしまう疾患が慢性副鼻腔炎です。

鼻内視鏡手術を行う代表的な疾患であり、すべての空洞を開放しなければいけません。しかし、すべての空洞が解放されたかどうかを確認する術が、今までは術後にCTを撮影するしかありませんでした。術後に開放されていない空洞があった場合、症状が改善しない場合は再手術になることもあります。

今回、移動型コーンビームCTである3D Accuitomo M(写真1)を導入し、手術中にCTを撮影することができるようになりました。アーム型となっているため手術台の上で麻酔をかけたまま3分程度で手術中の状態を確認でき、鼻手術の場合は、残存している副鼻腔が見つければ再度内視鏡を用いて開放することも可能となりました。さらにそのCTを用いてナビゲーションを行うこともできます。頭部・手・足の手術部位のCT撮影が可能となっていますので、耳鼻咽喉科、脳神経外科、歯科口腔外科など頭頸部の領域のみでなく、手や足などの四肢末端でも使用が可能となっており、我々の領域では耳の手術でも使用をしております。

写真1



アーム型X線CT診断装置を使用している手術の様子

問合せ先 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 外来 TEL: 0853-20-2390



ご報告



2023年夏

病棟の子どもたちと花火&夏祭り!

C病棟6階 看護師長 かげやま みほこ
陰山 美保子
病棟保育士 つばき あつみ
椿 敦美

7月25日、夕方より大学のグラウンドで毎年恒例の花火を行いました。「外で遊びたいな」と願っている入院中の子どもたちは、「花火ができるの?」「いつ?どこですの?」と、病棟花火大会を心待ちにしていました。子ども達は、久しぶりに外の空気を感じ、手持ち花火の輝きや吹き出す火花の色彩の変化を楽しむことが出来ました。

「外に出られてうれしかった」「花火がきれいだった」という子どもたちと、「子どもの楽しそうな顔が見られてよかった」「子どもにとって辛い入院生活の中、花火ができ、親子ともども心が元気になった」親御さんなど、うれしい声をたくさんもらいました。

8月31日、医学部学生キンダーフロイント部の協力のもと、夏まつりを開催しました。

昨年はコロナウイルス感染症対策のため学生はオンラインでの参加でしたが、今年は対面で、企画からみんなで一緒に進める事が出来ました。子ども達は受付や店番も担当しました。

当日、会場には薄ピンク、みどり、青色のふわふわした綿菓子甘い香りを漂わせ、一気に縁日の雰囲気になっていました。色とりどりのボールすくいや景品をもらえる当てくじや輪投げなど、目を輝かせて挑戦している子ども達の姿がありました。

大変な入院生活の中でも、楽しさを感じて、子ども達もご家族も笑顔が増える季節のイベントを大事にしたいと思える2日間でした。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。



問合せ先 小児病棟 TEL: 0853-20-2616

